

教科	国語	科目	日本語・日本文化探究	単位	2単位	年次	3年次
使用教科書							
副教材	『高校生のための現代思想ベーシック ちくま評論入門 改訂版』筑摩書房 『日本古典読本』筑摩書房						

1. 担当者からのメッセージ (学習方法等)

本校でグローバルな学びを続けてきたみなさんにこそ、本科目を通して日本語・日本文化について改めて考えてほしいと願います。幅広い時代の作品や、様々な形式のテキストに触れながら、日本語がもつ特質について考え、学びを深めます。既存の解釈に頼ることなく、古典作品を自立して読むことができるようになることを目指します。そのためには文語文法の知識を獲得することが不可欠です。また、口語文法への関心・疑問を持ちながら、近現代小説・評論文を読みます。形成されている文意はどのようなものか、なぜそのような文意が形成されるのかを考えましょう。

2. 学習の到達目標

- ・日本に残る様々な言語作品から日本の文化や美意識を自らの力で学びとることができる。
- ・様々なテキストに触れながら、日ごろ無意識に使用している口語文法について再考する。
- ・英語や翻訳作品との対比をすることで、浮き彫りになる日本語・日本文化の性質について深く考える。
- ・日本語のもつ特質が、文意の形成にどのように影響しているかを探究する。

3. 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a: 関心・意欲・態度	b: 話す・聞く能力	c: 書く能力	d: 読む能力	e: 知識・理解
観点の主旨	・自ら進んで日本語、日本文化に対する考えを深め、探究していく姿勢をもっている。	目的や場に応じて効果的に話し、的確に聞き取ったりして自分の考えを深め、発展させている。	目的や場に応じて効果的に話し、的確に聞き取ったりして自分の考えを深め、発展させている。	文語文法: 古典特有の表現を理解することができる。 口語文法: 文章の要旨や要点を正確に把握する。	・文語文法及び口語文法や漢字の知識を身につける。言葉がもつ働きに改めて気づくことで、言葉を自覚的に用いるようになる。
評価方法	・行動の観察 ・記述の点検	・行動の観察 (発表等のパフォーマンスの評価)	・行動の観察及び分析 ・記述の点検 ・確認テスト	・行動の観察及び分析 ・記述の点検 ・確認テスト	・行動の観察及び分析 ・記述の点検 ・確認テスト

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4. 学習の活動

月	単元	学習内容	主な評価の観点					評価方法
			a	b	c	d	e	
4	日本語(文語文法) 日本文化(古典)	文語文法復習	○			○	○	a,d,e: 行動の観察、確認テスト
5		平安期古典作品	○		○	○	○	a,c,d,e: 行動の観察及び分析、確認テスト
6		鎌倉期古典作品	○		○	○	○	
7		江戸期古典作品	○		○	○	○	
8		和歌・歌物語	○	○		○	○	a,b,d,e: 行動の観察及び分析、プレゼンテーション
9	日本語(口語文法) 日本文化(現代)	明治期小説	○		○	○	○	a,c,d,e: 行動の観察及び分析、確認テスト
10		大正・昭和期小説	○		○	○	○	
11			○		○	○	○	
12		平成期小説	○		○	○	○	
1		非文学テキスト	○	○	○	○	○	a,b,c,d,e: 行動の観察及び分析、プレゼンテーション

※表中の観点について a: 関心・意欲・態度 b: 話す・聞く能力 c: 書く能力 d: 読む能力 e: 知識・理解

※原則として一つの単元 題材 で全ての観点について評価することとなるが、学習内容 小単元 の各項目において重点的に評価を行う観点もしくは重み付けを行う観点について○を付けている。